

## コミュニケーションへの意識 フィンドレー大学奨学生レポート（12月）

これまでの4ヶ月間、私はアメリカ人技術者の下、生産や加工知識、現場でのコミュニケーションを学んでいました。その一方で、日本人技術者がどのように製造に携わっているのか関心がありました。学校が冬期休業期間に入り、普段と違った時間帯から働くことができるようになったため、私の希望を伝えたところクリスマスまでの期間は日本人技術者の下で、学ばせてもらえることになりました。

そこで改めて勉強になったと感じるのは、技術面よりも意識面でした。それは、日本人ともコミュニケーションしやすい工夫をしているか、というものです。例えば私がアメリカ人の技術者からなにか教えてもらう際は、分からないものがあるとよく自分の言葉に直したものに変わって聞き返し確認していました。また質問も、シンプルな表現をしようと努めていました。この為、拙いながらも漏れが少なく確実に伝わった実感を持っています。対して、日本人から教えてもらう際には、言われたことが全てわからなくとも類推しやすい為、確認が甘くなってしまうことがあります。はじめは理解出来た気でいて、作業の途中で完全に理解できていないことに気付く、といったミスが今回ありました。これはコミュニケーション不足の招いた一例だと考えています。

日本人技術者の元にいたことは、シンプルな質問を作る、言われたことを自分の言葉で捉え直す、などの意識をアメリカ人だけでなく日本人に対しても意識しようと思えるよい機会になったと思います。

また、建築への興味から冬期休暇はシカゴへ旅行しました。このときユースホステルを利用したのですが、そこではプログラマーとして働いているインド人の方、シンシナティの学生、日本の佐世保にて駐在していたと言う海軍出身の方など、色々な経歴を持つ方々と出会うことができました。特にインドの方とは仲良くなり、一緒にシカゴの町を回って楽しむことができました。一人で散策するつもりであった旅行がこんな風に変ったことは、当初考えられなかったことです。偶然の出会いも一期一会として考え、これからも大切にしていきたいと思いました。



シカゴの博物館でインドの方と



アメリカー高いウィルスタワーにて